



伝えていきたい 「食育」の大切さを

あさひ食育アドバイザー連絡会会長

鈴木 道子さん(東足洗)

「感謝の気持ちを持って食べてほしいですね」。市保健推進員として「食」の大切さを学んだ。この経験を生かせないかと、平成17年に仲間と「ちば食育ボランティア」に登録。食育活動がスタートした瞬間だ。

食育とは、健全な食生活を実践できる人間を育てること。当時はその言葉を知らない人がほとんどで活動する場もなかったという。最初の食育活動は地元小学校での家庭科授業。学校関係者の理解と協力で実現したと、当時は振り返る。そして、関係機関などの協力で、少しずつ自分たちのボランティア活動の幅も広がっていった平成21年、食育の推進を図る組織「あさひ食育アドバイザー連絡会」が発足した。鈴木さんは、一緒に活動する仲間と会に加入。食育アドバイザーとしての活動が始まった。

アドバイザーの主な活動は、小学生を対象に地元食材

を使って調理体験を行う「食農授業」や「親子クッキング」など。「子どもたちに、地元で採れる食材や食べ物を作る楽しさを知ってほしい」と野菜の名前当てクイズを授業に組み入れるなど、工夫を怠らない。「昔の食生活の教えや体験談などの話には興味津々」と子どもたちの真剣に聞き入る姿が、次への活動の力になるのだという。

今後の目標は、空き店舗などを利用して調理実習教室を開くこと。「食育は幼児期から。若いお父さん、お母さんたちにも食育の大切さを伝えていきたい。旭の子どもたちのために」——。力強く話してくれた。

行政へ一言！

食育はとても大切な教育の一つです。学校の家庭科室の調理器具を充実するなどして、食育に取り組む環境がより一層整備されるといいと思います。

【あさひ食育アドバイザー連絡会】

「食」を通じて健康な生活を生涯にわたって送れるよう、食育の推進活動を行うあさひ食育アドバイザー連絡会。現在会員は27人。市内小学校などで食育に関する活動をしている。

